

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227  
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781  
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成17年3月(2005年) No.471

## 作品研究会2年ぶりの再開は大盛会 次回(4月)は関講師で「音」をテーマに

平成14年12月に作品研究会を大阪駅前第2ビルの元の例会場で開催してから2年2ヶ月ぶりに再開された作品研究会は、出席者18名、出品数16本も出て大盛会でした。むしろ作品数が例会なみに多かったのが、本来の研究会のねらいとは違う悩みも出てきました。いろいろ皆さんの意見を聞きたい、アドバイスを受けたい、との思いが多くの方にあつたのではないのでしょうか。とにかく多くの方々の参加はうれしいことです。

今後の課題として、研究会らしく、特定なテーマを設けて、優先的に取扱ったらどうか等の意見も出てまいりました。

今回、私は同じテーマ、素材で、構成を変えた事例として2作品を紹介しました。中越地方のかつて訪れたことのある風景や山古志村の闘牛等とその後に発生した大地震による被害と豪雪の報道などのテーマですが、大災害のニュースを先に持ってくるか、撮った順序で後に持ってくるか、の2つのシナリオで作ったものです。上映後、皆さんの声を聞くと半々の意見でした。これからも何かテーマを見つけて有意義な研究会にしたいと考えております。

今回は関世話役に講師をつとめて頂いて「音の編集」についてパソコンを会場に持ち込んで研究会を開催します。4月第4土曜日、例会前の午後13時30分からです。例会作品も映像は申し分ない編集をされていますが、音の処理に無神経というか安易に取扱っておられる例が多数見受けられます。音は主役である映像を助け理解を深め、作品への相乗効果をもたらすものです。第3回目以降のテーマに対して「声」を寄せてください。合原

### 3月例会のお知らせ

3月例会は26日(第4土曜日)午後6時より大阪市立難波市民学習センターにて開催します。寒さも和らぎました。  
 月一度の楽しい集いにぜひどうぞお集まりください。作品も遠慮なくお持ちください。

## 撮影会は6月18、19日 橋本市にて「釣り竿づくり」を

OMCニュース2月号で予告しましたように、今年のOMC一泊撮影会は、岡本さんの提案により、橋本市の地場産業でもある「へら鮒専用の釣り竿づくり」の現場を主な撮影対象に予定しています。現在、橋本市には「竿師」は十数人おられるそうです。へら竿づくりの製作工程に分業はなく一人で最初の竹の切り出しから、最後の仕上げまで一人で行われる全くの手づくり品とのことです。撮影会当日は、どのような工程が撮影可能か判りませんが、工程の一部しか撮れないと思います。たゞ、完成品は展示場でいくらかでも撮影可能です。作品をどう構成してまとめるか皆さんの工夫が試される撮影会になりそうです。

宿泊など予約の都合上、同封のハガキにて4月10日頃までに欠出のご返事をお願いいたします。

### 記

日時(予定) 6月18～19日(土、日)  
宿泊(〃) 天然温泉 ゆの里  
集合(〃) 南海電車橋本駅前10時  
参加費(〃) 15,000円

### 関連情報

- 第4回紀州へら鮒竿の里「全国へらブナ釣り選手権大会」開催
- 西日本予選会 5月8日(日)貝塚市「水藻フィッシングセンター」7時～
- 決勝戦(全国大会)6月5日(日)橋本市橋本・隠れ谷池、7時半～15時
- 試釣会、決勝戦と同じ場所で前日4日(注)会場内には部外者の立入は難しいと思われるのですが、すぐ横の丘の上から俯瞰撮影ぐらいなら撮影できそうとのことです。

## OVC公開映写会4月3日

姉妹クラブの大阪ビデオクラブ(OVC)は4月3日(日曜日)13時30分より公開映写会を開催します。場所は大阪市立中央会館(地下鉄堺筋線、長堀橋駅下車6号出口から堺筋を南へ周防町通り左折右側、徒歩5分)。ぜひ足を運んでください。

## 全国コンで安居氏が受賞

第17回飛騨高山ドキュメンタリー映像祭において、安居利次さんが受賞されましたのでお知らせします。

佳作 「一眼惚れ」 7分 安居利次

飛騨高山コンは全国的なコンテストの中でもレベルの高いコンテストです。2年前故安居良枝さんが「蘇れ法善寺横丁」で審査員特別賞を受賞されていますので、今回のご主人の受賞でご夫妻そろっての受賞となりました。おめでとうございます。良枝さんを描いた作品で受賞されたことで、彼女もあの世でさぞ喜んでおられることでしょう。

### ■新入会員のご紹介

山田信吾さん TEL 06-6784-7534  
〒577-0061 東大阪市森河内西2-18-7  
よろしくおねがいします。

## 2月作品研究会レポート

2年2ヶ月ぶりに開催しました作品研究会は、当初12～3名位の出席で、作品数も7～8本は出るからと思っていましたが、何と会員外の人も2名参加され、18名の出席者と16本の作品が出されて例会なみの賑やかさとなりました。司会と記録は合原会長が、上映は増池、河合の両氏、受付兼照明係は宮崎、奥の両氏が担当しました。

### ■上映作品

#### 1. ボールペンとネパールの子供達

石山 徳治さん 5分0秒

石山さんはOVC会員さんですが、OMCの研究会に参加を希望されて出席されたもの。作品内容はネパールの子供達に直接ボールペンを手渡すというドキュメンタリーで立派なものでした。撮影ミスから画面の露出に失敗したので、せめて映像に陽の目を見せようとモノクロにして持ってこられたもの。内容が貴重な記録だけに、失敗画像を何とか活かしたいとモノクロにされたのは正解でした。モノクロの中に部分的にカラーを挿入される場合、そのカラー画面は強く印象づけられ強調されますので、使い方に工夫と計算が必要だ、との研究会ら

しいテーマを提供されました。

## 2. ネパールの苦惱・マオイスト

西村光雄さん 10分0秒

マオイストとはネパールのゲリラ組織毛派のことだそうで、作者がネパールへ行かれた日が、丁度マオイスト主導のゼネストの日だったようです。商店はすべてシャッターを降ろし、車はほとんどストップ、街は歩行者天国のようでした。この作品を見るとネパールは怖いところ、大変政情不安なところと思われがちですが、ストは1日だけで元へ戻ったようです。作品構成の点で色々意見が出され作者も大いに参考になったと思います。立派な作品に仕上がることに期待しましょう。

## 3. 花火 江村一郎さん 4分45秒

平成15年10月例会で「花火を見に行く」という題名で発表されている作品でしょうが、約1分余り縮めたとのこと。現録でヨサコイの歌が入っているので地元高知の花火でしょう。花火の映像作品はまとめるのが難しいなと実感しました。5分足らずの作品でも、まだ長いなど感じるのは、花火作品の宿命かもしれません。また花火作品には、その音処理の難しさも知るよき教材となりました。

## 4. 山上憶良（やまのうえのおくら）

安居利次さん 7分20秒

このところ安居さんは難しい歴史もの等をよく手掛けておられます。現存しないものを作品にすることの難しさが実感できるよき教材となりました。いろいろ工夫して作られています、要は短時間の作品でどれだけの表現ができるか、テーマのしぼり方が課題のように思いました。

## 5. 飛驒古川祭

奥 宏さん 8分12秒

昨年7月例会で発表されたとき、色々助言を受け、それを参考に作りなおして持参された由。古川という町の紹介から始まり、祭り行列、屋台、からくり、子供歌舞伎と華やかな祭の模様が描かれています。前回例会で拝見したときよりも、良くなっているように思いました。それにしても大きな祭を10分程度の作品にどうまとめるか、どう絞りこむかが難しい課題のようです。

## 6. 常夏の花

有村 博さん 5分0秒

タイ美人の踊りをバックに、常夏の花をピクチャーインピクチャーで挿入してみたという作品。一見、何の関わりも無さそうな踊りと、華やかな色彩の花とを何とか結びつけて映像表現してみたいとの、作者の実験映像かも知れません。こういう作品はムードよく、スムーズにいかには違和感なく表現できるか、選曲と編集技術と映像センスの勝負がモノを言うんでしょね。

## 7. 国境の街

河合源七郎さん 6分10秒

インドとネパールの国境で、通過するのに2時間半もかかるそうで、そのバスが停まっている間に窓越しに撮影された由。国境を通るときは緊張感があるものですが、ここではむしろ、のんびり感みたいな雰囲気です。聞けばバスのエンジン音で窓外の現録が聞こえないとか。珍しい映像でしたが、バスの中からだけの映像で作品をつくることの難しさを味わいました。

## 8. あゝ、日本のふるさと原風景・構成1

合原一夫さん 6分24秒

新潟県中越地方を旅したとき撮影しておいた山古志村の風景や闘牛、高柳町荻ノ島の風景映像と、今度の中越大地震の報道資料と結びつけて、何とか作品にしたいと、研究会テーマとして構成を変えたら、どう印象が違ってくるか、という考えからまとめたものです。その1は、撮影した順に、雪の中越、荻の島、初夏の頃の荻の島や山古志村、そして一転して大災害のニュースへと構成したものです。

## 9. あゝ、日本のふるさと原風景・構成2

合原一夫さん 5分42秒

構成1に対し、構成2は、大災害のニュースをトップに持ってきて、回想形式で美しかった荻ノ島や山古志村ののどかな風景や闘牛、そして再び豪雪の山古志村のニュースで、現地の人達や、牛たちの安否を気遣い、もう一度復興後の現地を訪ねてみたいとのナレーションで終わる、という構成。どちらが良かったかと手を挙げてもらったところ、半々でした。また題名は変えた方がよい等の貴重な助言を頂きました。

## 10. 晩秋の穂谷 (ハイビジョン)

前田茂夫さん 7分34秒

さすがにハイビジョンの映像は鮮明できれいです。あまり知られていない穂谷という集落ですが、枚方と奈良県との境にあるそうです。そうめんが作られているのを初めてしりました。例会作品に出してもよい完成された作品です。

## 11. 西梅田寸描

増池 茂さん 7分0秒

前年度の10月例会で発表され、そのとき指摘されたところを修正して作り直したと作者の弁がありました。よく仕上がっていました。石の彫刻などは省いて近代的なモダンなカットだけに絞った方が更に印象が強くなるのでは、という声がありました。

## 12. 神戸北野異人館めぐり

宮崎紀代子さん 4分0秒

宮崎さんもこのところ精力的に作品をつくっておられ上達されました。今回は異人館めぐりというより異人館散策といった感じの作品でした。大きなサンタクロースの風船が大屋根に張り付いている館に絞って、観光客の表情や子供の笑顔などでまとめる方法なども考えられそうです。こういう作品でも、テーマをどう絞るか、これも研究課題の一つでしょう。

## 13. ペトラ遺跡 (改作前の作品)

上総修一郎さん 9分0秒

## 14. ペトラ遺跡 (改作後の作品)

上総修一郎さん 8分0秒

珍しいところへ行かれた貴重な映像です。改作前の作品はOVCの例会で上映され、その時の助言をもとに少し作り直して縮められたのが、改作後の作品だそうです。コマ撮りのカットがまだ残っていたり気になる箇所はありましたが、題材が珍しいので魅きつけられて拝見いたしました。

## 15. 惹喜童子像

那須典彦さん 8分0秒

仏像を彫る方に頼まれて撮影された由。手先のアップや人物の表情など実に見事に撮影されています。題名について異論が出ましたので再考してください。いずれ良い作品になると思います。

これは記録というより人物を描いたもの

で、仏を彫るという「きびしさ」がテーマのように見受けられますので、展覧会のラストシーンは省くかイントロに持ってきた方がよいと思いました。「合掌」もどうでしょうか。

## 16. 高山の地

進藤信男さん 14分40秒

豊能町高山の歴史や風物を描いた超大作ですが、もう少しマトを絞って再構成されたら良い作品になると思います。

## 2月例会のレポート

研究会に引続き開催。司会、有村氏、書記、岡本氏、映写、増池、河合両氏、受附兼照明係、宮崎、奥の両氏で開催しました。

◆出席者：有村、石垣、江村、岡本、奥、上総、紙本、河合、黒田、合原、進藤、関、那須、西村、秦、華岡、前田、増池、松本、宮崎、森口、森、森下、安居、山本、吉岡、渡辺、田中、山田（新入会者）の29氏に見学者2名の合計31氏。

◆上映作品（今月の記録と講評担当は岡本世話役です）

### 1. 光と影のページェント (PartIII)

ハイビジョン

前田茂夫さん 7分44秒

いよいよハイビジョンのSL作品が登場。ビクターのGR-HDIで撮られたものをプレミアプロ1.5で編集してこられたものです。何度みてもシャープな映像には驚きます。作品内容は京都梅小路の夜のイベントを取材したもの。闇の中に光に照らされて浮かび上がったSL、主催者側の女性ナレーションとBGMが一層ムードを盛り上げます。SLファンにはたまらない映像です。ただBGMが現場音だけに音量の調整ができないのが残念ですね。時々アップで写る女性ナレーター映像は画面の片隅においた方がよいように思いました。

### 2. えべっさん

増池 茂さん 7分40秒

今年の今宮のえべっさんを取材されたもの。すごい人込みの中でよくぞカメラをまわされました。

まず、芸者さんが宝恵かごに乗って登場するところからはじまります。そしてカメラは両側にならぶ露店どおりを神社へ。福笹を売る福娘さんのアップへとつながっていきます。福娘さんはやっぱり絵になりますが、指のバンソーコーが気になったと作者。でも福娘さんは、一人だけじゃなかったでしょうが。でもその娘が気になったのかな。7分40秒という時間はちょっと長すぎます。良いカットがたくさんあるのに編集が乱暴すぎますのでもう少し整理をするとしまると思います。

### 3. 冬 金剛山 (ワイド)

江村一郎さん 5分20秒

1月22日に金剛山へ登られて撮影されたもの。樹氷の美しさがみごとに表現されています。樹氷は午前中がきれいだといわれますので早朝より行かれたものと思います。ワイド画面でみごとな作品ですが、人物の顔がきれいているカットははずした方がよいと思いました。

### 4. 魅惑のタイ・アユタヤ編

黒田敏彦さん 12分

作者はよくタイに旅行されるようで、タイの作品をよく見せていただきます。今回はバンコクから北へ76 Kmのアユタヤです。アユタヤはウートン王が築いた都で、400年余り続いたが1767年ビルマ軍の侵攻により終焉。徹底した破壊は美しい都を荒地と化したのが、今はロマンを秘めた遺跡として、在りし日の栄華をしのばせる、という字幕ではじまります。荘厳なBGMによって寺院や仏像が紹介されていきます。ワット・プラ・シー・サンペットやウィハーン・プラ・モンコン・ボピットのタイ最大級のブロンズ仏像が出てきます。侵攻で破壊された首のない仏像群などが残り、戦闘の激しさを物語っています。

中程で焼失シーンを再現していますが、ここはむしろトップシーンにもっていった方がよいような気がします。BGMだけで見せていますが、テロップかナレーションをいられると分かりやすくなったと思います。それと必要外のズームが多いのが気になりました。

### 5. 光る海の港町

山口幸代さん 6分15秒

クロアチア共和国の西側イストラ半島のヴェネツィア湾に面した小さな港町、ロヴィニに行かれた作品。澄み切った空と光に反射する海のカットからはじまります。そしてカメラは港町へとはいっていきません。下町的な港町の風情がよくでています。最後に海のシーンで終わっていますが、ここは港町で終わった方が余韻を残したと思います。しかし美しい映像でした。

### 6. あびこ観音節分大法会

奥 宏さん 5分30秒

住吉のあびこ観音の今年の節分祭を取材されたもの。ナレーションは観音様の解説からはいりますが、画面はいきなり線香をかざす女性のアップからはじまります。ここはやはり位置関係を示す映像からはいった方がいいと思います。ナレーションの状況説明はなくても画面からわかります。それから同じカットははぶいた方がいいと思います。それでも混雑の中よくお撮りになりました。

### 7. ニュージーランド紀行クィーンズタウン

那須典彦さん 5分53秒

作者のニュージーランド紀行作品の中のひとつクィーンズタウン編です。流暢な女性のナレーションにのせて、風光明媚なワカティブ湖など作者の安定した映像で見せてくれます。私も一度訪れた町、もう少し見たかったです。もう少し長くてもよいように思いました。

### 8. 初詣 宮崎紀代子 4分20秒

作者の友人を主人公に曾根崎のお初天神初詣でを取材されたもの。日本古来の初詣での風情はよくでていますがBGMがジャズではちょっと合いませんね。それとおみくじに気をよくしたとありますがおみくじのアップがほしかったですね。

宮崎さん、作者名は最初にだしていただきたいです。

### 9. 白神山地を歩く

有村 博さん 7分35秒

昨年の10月山好きの作者ご夫妻が青森県と秋田県に跨がる白神山地を訪れた作品。錦おりなす紅葉と作者の安定した画面は落ち着いて見ておられます。私たちは白

神山地を歩きましたというテロップではじまりますが、人物らしきものがなかなかできません。中ほどでご夫妻がワンカットづつですがここは最初に出してほしかったです。三脚をたてて2ショット1カットは入れておいてほしいと思います。テロップよりナレーションの方がよかったような気がしました。

#### 10. 御師 (おんし)

安居利次さん 5分

この映像を見終わって、分かった人は5人でした。私もわからない口でした。何回も見ているうちに何となく分かったような気がしましたが定かではありません。

伊勢神宮をテーマにしたものと思われる。昔は一般の人は伊勢神宮にお参りできなかったそうです。それが朝廷の力が弱まって伊勢講というのができて、それをつれていったのがどうやら御師ということだそうです。それが今の伊勢神宮ご参拝へとつながっていったと解釈するのが妥当なのかわかりません。安居さん、ゴメン。

#### 11. 海鳴り

河合源七郎 5分03秒

作者は昨年「凍れるとき」という名作を発表されました。今年も早々、日本海の厳寒の海に挑戦された。全編怒涛うずまき、岩を打ち砕く波の情景です。

辞書で「海鳴り」とひけば「台風や津波がくる前ぶれとして海から響いて来るうなり」とあります。私はこの意味を念頭において作品を見せていただいたが、ゴウオーという情景が伝わってきません。確かに冬の凄まじい情景はでていますが「海鳴り」までいかないような気がします。しかし映像はりっぱなものなので「冬の海」でもよかったのでは。全編にBGMをいれなくても現場音だけのシーンもあってよかったのではと思いました。ラストはスローモーションで終わった方が良かったかなと思います。

#### 12. 鞍馬山 改正 森口正吉さん 8分50秒

2月に京都の鞍馬山に行かれた作品です。いきなり天狗のアップの映像ではじまります。今回は「水紀行」ではないと思

って見ていると、やはり水が出て来ました。聞くところによると鞍馬は水の山ともいわれているようです。流暢なナレーションで鞍馬山を紹介されていました。

#### 13. 京のえべっさん

渡辺雄史さん 5分

こちらは京都のえべっさん。大阪の今宮戎とはちょっとスケールが違うようです。

でもやってることはどこも一緒なのですね。それにしても混雑の中よくお撮りになりました。

#### 14. 初弘法 紙本 勝さん 9分

1月21日に京都の東寺の初弘法を撮られたもの。露店や祈願の情景など人込みの中をよく撮られました。ところが人影のない建物や仏像がでてきますが、タイトルからして何か違和感を感じました。

#### 15. 江南水郷の古鎮

松本 昭さん 7分44秒

中国の周庄は、上海の西 80Km、蘇州の南東30 Kmにある江南水郷を撮影されたもの。解説の長い字幕で始まりますが、長すぎて読んでる時間がありません。いっそナレーションを入れられたらどうでしょうか。水郷をいく船のスローモーションが延々と続きます。船が揺れ過ぎてスローモーションにしたと作者の弁。ここは取ってしまうかショートカットにした方がよいのでは。そしてBGMがあつてません。やはり中国調のBGMが良いように思います。

#### 16. 黄海を渡る

山本正夢さん 6分30秒

作者はよく外国旅行されて作品を見せてくれます。今回はその渡航中の船旅の様子を見せて頂きました。神戸から天津までの50時間かけての船旅です。

神戸の出航シーンからはじまります。子供達のゲームに興じるシーン、食事のシーンへと続きます。それからショートタイムなど克明に映されています。避難訓練までありました。それにしても長い船旅ですね。おつかれさんでした。

以上で例会を終え、いつものように喫茶組と一杯組みの二手に別れて二次会へ向かいました。